

年金者一揆 アピール (案)

消費税が上がり、物価が上がる。光熱費、食料、ガソリン代など、生きていくのに欠かせないものが上がり続ける。このようなときに、年金を容赦なく引き下げる非道。暮らしていけない月額数万円の年金を引き下げる非道。

少子高齢化なのだから高齢者はがまんせよ、と言う。若い世代につけをまわさないためにがまんせよ。医療にも介護にもお金がかかるのだから、サービスは減らし、負担は増やす。少子高齢化社会なのだから、がまんせよ、と言う。

しかし、年金は高齢者だけの問題ではない。物価上昇のなかはいよいよ発動される本格的で、連続ひき下げのマクロ経済スライド。これでは、将来の年金はいっそう悪化する。

賃金は上がらず、非正規雇用が増える若い人の雇用。保険料を納められない人々。将来の年金はどうなるのだ。いま、国民が高齢期に求める社会保障の充実は、断トツで年金だということが明らかになった。

下がり続ける年金、増大する負担のなかで、“老後破産の現実”が広がっている。食べものに困り、医者にかかれぬ高齢者たちが増えている。一方でグローバル経済を勝ち抜き、太り続ける大企業、大資産家たち。戦争準備にひた走る安倍政権。

私たちは、なんとわれようと年金引き下げを我慢しない。12万6千642人が不服審査請求を提出してたたかい、こんどは20万請願大運動だ。安倍政権への直訴だ。引き下げは不当と裁判でもたたかう。

高齢者をいじめ続けるなら、安倍内閣は退陣せよ。消費税を上げるな。だれでも普通に暮らせる最低保障年金をつくれ。

いまこそ声をあげよう。声をひろげよう。3千百万の高齢者に呼びかけ、若い人と手をむすんで、私たちは闘い続ける。

さあ、団結してがんばろう。

2014年10月17日

全日本年金者組合

怒りの年金者一揆2014